

### 3. 高気圧治療装置新設に伴う改善点とその特徴

眞野喜洋\*<sup>1)</sup> 角田幸雄\*<sup>1)</sup> 山見信夫\*<sup>1)</sup>  
 中山 徹\*<sup>1)</sup> 外川誠一郎\*<sup>1)</sup> 中山晴美\*<sup>1)</sup>  
 岡崎史紘\*<sup>1)</sup> 芝山正治\*<sup>1)</sup> 荻原義光\*<sup>2)</sup>  
 中村研治\*<sup>2)</sup>

{ \*<sup>1)</sup> 東京医科歯科大学医学部高気圧治療部  
 \*<sup>2)</sup> (株)中村鐵工所 }

東京医科歯科大学に第3号機の高気圧治療装置が本年導入された。1966年に第1号機が実験用装置として導入されて以来35年、1977年に新造された第2号機から24年が経過し、その間の技術向上にはめざましいものがあったため、いままでの経験を盛り込んで今回の新造に至ったのでその改善点と特徴について紹介致したい。

#### 高気圧酸素治療装置 (NHC-412-A 型) の特徴

- 1) 今まで治療 table の異なる患者を同時に治療できなかった経緯から3室式構造(主室A,Bと副室)とし、各室は独立した機能を持つ。
- 2) 出入口は slide 方式とし、段差をなくし stretcher の出入りを容易にした。
- 3) 全室の最大許容圧力は 0.5 MPa とし、主室A,Bともに第1種装置毎患者を収容できる。
- 4) 治療用呼吸 gas として主室Bでは Heliox の利用が可能である。
- 5) Presentation System を導入して治療室内の聴覚障害を有する患者とも交信できる。
- 6) 自動制御用の computer は二式装備されているので故障時にも対処できる。
- 7) 高気圧室の直径は 3.0 m 長径は 11.0 m。
- 8) 室内監視用の TV カメラは室内外に6台固定されており、室外カメラは旋回および拡大機能を持っているので室内のカメラ死角が無く、全ての患者の動作を観察、録画できる。等々

この第2種装置の運用を継続することで今後、更なる改良を加えていく予定である。

### 4. 高気圧酸素治療用データベースシステムの作成

濱田倫朗\*<sup>1)</sup> 小妻幸男\*<sup>1)</sup> 菅田 墨\*<sup>1)</sup>  
 川野洋真\*<sup>1)</sup> 堀内賢二\*<sup>2)</sup>

{ \*<sup>1)</sup> 済生会熊本病院臨床工学部  
 \*<sup>2)</sup> 同 心臓血管センター }

【はじめに】高気圧酸素治療効果の evidence を求めるためには、患者情報や治療記録を正確に記録し管理する必要がある。今回、我々はデータベースソフトであるファイルメーカーPro Ver3を用い患者基本情報および治療管理から治療記録・統計処理までをデータベースとして活用できるシステムを作成したので、その有用性について報告する。

#### 【使用装置およびプログラム】

- 1) PC: Dell Dimension V400c (メモリ 128MB, HD 4GB, OS Windows NT ver4.01)
- 2) アプリケーション: ファイルメーカーPro Ver3
- 3) 計測値収集プログラム: Bio Log (Microsoft Visual Basic 6.0 で作成)

【結果】ファイルメーカーProを用い、患者基本情報と治療予定の2個のファイルを作成し、治療予定ファイルは患者基本情報ファイルからリレーションを組むことにより情報の共有化を図った。患者基本情報ファイルでは、氏名・年齢・性別・患者番号・病棟・適応疾患・治療回数・患者説明・治療効果などの情報を管理し、治療予定ファイルでは始業・終業点検記録から治療管理・治療記録・月間統計などの情報を管理するように作成した。これにより、

- 1) 適応疾患ごとの統計処理。2) 病棟ごとの統計処理。3) 治療記録の必要時閲覧。4) 血圧・脈拍データの保存。が可能となった。

【結語】今回作成したデータベースファイルを用いることにより、疾患別に治療効果の分析・検討が可能となり今後、高気圧酸素治療を行う上で有効に活用できるものと思われた。